2019年度サポートシステムあゆみ　事業報告書

　　　　（生活介護・放課後等デイサービス・居宅介護・重度訪問介護・行動援護・同行援護）

　　　　（地域生活支援事業・インフォーマルサービス）

戸田拓郎

前年度までと同様、地域の中で一人ひとりがより生き生きと暮らしていけるよう各事業において支援を行い、また事業間・法人内各事業所とも連携を取りながら取り組んだ。その為に、内部研修を行ってあゆみのこれまでの取り組みや理念を改めて振り返り、各職員が思いを共にする機会とした。また、自閉症eサービスを初め、各種外部研修に計画的に参加し、職員各々の職歴・職務に必要なスキルを学んできた。

職員体制としては、サポート事業に新たに班長職を設け、職員指導や現場の取りまとめ役を担った。

パート職員1名が常勤で生活介護との兼務となった。利用者・ご家族の高齢化に伴い年々増加していく地域生活継続の為の支援ニーズに対応していく為、パート職員を随時募集していたが、あまり応募がなく年度途中にパート職員1名を採用するに留まり、一部のパート職員に勤務が偏ってしまっている。

◎生活介護（ふきのとう班）

　　昨年度まで在籍の11名に加え、これまでオープンスペース‘AYUMI’生活介護から体験参加していた1名が正式に利用契約し、オープンスペース‘AYUMI’就労Bからも1名移籍した。また当事業所の行動援護利用者１名も、月２回の利用だが、６月から仲間に加わった。一方で、５月にはこれまで闘病しながらも調子の良い日に活動参加されていた利用者が、残念ながら亡くなられた。

これまでの基本的な活動を継続しながら、Wiiスポーツや太鼓の達人等のゲーム、絵本動画鑑賞、ひまわり栽培等、色々な体験ができるよう利用者の様子を見ながら活動の幅を少しずつ広げた。

◎放課後等デイサービス

前年度末に６名卒業された影響で年度初めは利用数が前年度を下回る月が続いたが、徐々に新規利用者を増やしていき、７月以降は前年度を上回っている。相談支援員や学校の先生、当事業所職員等からの紹介を受け、またホームページ等からの情報を得て利用に繋がった方もあり、年度内で11名の新規契約に至った。また、年度末をもって5名が卒業に伴い利用終了となった。

　5月からは月1～2回、土曜日の活動を始めた。6時間の実施時間でお出かけプログラムを中心に、「鶴橋で食べ歩き」「いちご摘み」「伏見稲荷大社初詣」等、平日にはできない体験を提供した。利用はどの日も数名ずつと少なかった。

　3月には初めて家族交流会を企画していたが、感染症流行の影響で実施できなかった。

◎居宅介護・重度訪問介護・行動援護・同行援護

居宅介護は昨年度と利用される方は同じだが、利用の仕方がそれぞれの事情で変わってきており、利用時間数は減少した。

行動援護も利用される方は変わっていないが、家族の高齢化等も影響してコンスタントに利用される方が増えており、利用時間数が増えた。

同行援護は変わらず2名の利用を継続しており、通院等での利用が増え、昨年度より利用数が増加した。

重度訪問介護は今年度も対象者がいなかった。

◎地域生活支援事業（移動支援・日中一時支援）

　　移動支援は、3名新規契約（内2名は将来的な利用を見越しての契約の為、今年度は利用実績なし）し、また利用頻度の上がった方もおり、昨年度より利用時間数が増加した。

日中一時支援は、引き続き成人の平日日中プログラム「ちょこっとステイ」での利用があった。毎年恒例のクリスマス会には8名が日中一時支援を利用して参加された。(他サービスを利用して5名参加あり)

◎インフォーマルサービス

　　「ちょこっとステイ」（日中一時支援以外）の他、必要に応じてレスパイトサービス、送迎サービスを行った

音楽プログラム「ケチャケチャ」は前期（9名参加）・後期（10名参加）各5回ずつ実施した。前年度から変わらず楽しみに参加されている方に加え、新規の参加者もあった。講師の水野先生と相談しながら、和太鼓を中心に少しずつ内容をリニューアルして行った。